

助成受給団体名	ふりがな ふくしま あいづ じどうふくし けんきゅうかい 福島会津児童福祉研究会
事業の名称	あいづ子ども家庭福祉サポート事業
実施期間	平成25年11月1日 ～ 平成 26年 7月31日
実施した事業の内容(200字以上500字以内に収めてください。)	
<p>1) 関係機関との連携: 子ども家庭福祉や非行や犯罪防止に関連する機関と情報交換を行った。また震災によって避難している地域の学校や教育委員会関連機関との情報交換を定期的にもった。</p> <p>2) 研修会の実施: 非行少年の理解と対応について研修会を行った。また、地域住民を対象とした子ども家庭福祉の理解を促す研修会、小中学校向けの子どもの理解についての研修会を担当した。</p> <p>3) 子ども家庭への支援: 養育上の困難を抱える子どもおよび保護者に対して、心理判定や心理教育、心理面接を週1回程度提供した。また、他機関と連携し、震災による避難住民、とくに子どもへの学習支援にも関わった。</p>	
事業の成果(200字以上400字以内に収めてください。)	
<p>1) 関係機関との連携: 現状の理解や情報交換については一定程度行うことができたと考えられる。今後さらに本団体自体のPRについても実施していきたい。</p> <p>2) 研修会の実施: 非行少年の理解と対応、地域住民や小中学校教員向けの研修会を企画また担当した。しかし、当初予定した養育に関する悩みや不安感を抱える潜在的な養育者を発見し、支援につなげるという意味では広報活動に力を入れる必要性を感じた。また本団体独自に、子どもの問題行動に対応する研修マニュアル・プログラムを作成したことは大きな成果である。</p> <p>3) 子ども家庭への支援: 一貫して心理教育や心理判定、心理的サポートなどを提供することができた。また震災による避難住民、とくに子どもへの学習支援にも関わり、活動の幅が広がった。</p>	
今後の課題	
<p>1) 活動人員の確保: 定期的に活動ができる人員を確保していくことが課題である。</p> <p>2) 広報活動: 今後、さらに本事業の活動を広報していくことが必要である。</p>	

